

|         |
|---------|
| 受 験 番 号 |
|         |

# 国 語

(100 点 60 分)

(2026 年度 一般入学試験 A-3)

## 注 意 事 項

- 試験開始の指示があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- この問題冊子の表紙の受験番号欄に受験番号を書いてください。  
複数の受験番号がある場合、受験票に記載されているメイン受験番号を記入してください。
- この問題冊子は表紙を除き、15 ページです。
- 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を高く挙げて監督者に知らせてください。
- 解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があるので、監督者の指示に従って、正しく記入してください。
  - 氏 名 欄 漢字氏名を記入してください。
  - 科 目 名 欄 「国語」と記入してください。
  - 受験番号欄 受験票に記載されているメイン受験番号を記入し、その下のマーク欄に、正しくマークしてください。
- 受験番号が正しく記入されていない場合は、採点されないことがあります。
- 解答は、解答用紙の解答マーク欄にマークしてください。  
例えば 

|    |
|----|
| 20 |
|----|

 と表示のある問いに対して③と解答する場合は、次の（例）のように **20 の解答マーク欄の③にマーク**してください。

(例)

|    |             |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|----|-------------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
|    | 解 答 マ ー ク 欄 |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
| 20 | ①           | ② | ● | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ | ⑨ | ⑩ | - | ⊕ |

解答マーク欄に複数のマークをすると、不正解になります。訂正するときは消しゴムできれいに消して、書き直してください。

- 問題冊子の余白等は適宜利用してもかまいませんが、どのページも切り離してはいけません。
- 不正行為について
  - 不正行為に対しては厳正に対処します。
  - 不正行為に見えるような行為が見受けられた場合は、監督者が注意します。
  - 不正行為を行った場合は、その時点で受験を取りやめさせ退室させます。

国

語

(  
解  
答  
番  
号

1

5

36

)

第1問 次の文章を読んで、後の問い（問1～問10）に答えなさい。

かつてラテン語は、国際的な（といってもヨーロッパ域内の）學術語として流通した。しかしいまでは、まったく実用性を喪失している（ましてヨーロッパから遠く離れた、極東の島国では……）。にもかかわらずラテン語は、学校で長く余命を保った。（注1）『車輪の下』の主人公ハンスがラテン語（さらにまたギリシア語）の勉強に苦勞したのは、十九世紀の末である。英語の school は元々、ラテン語の schola から来ている。よく言われるように schola は、「余暇」を意味している。要するに school は、「仕事」の空間ではなく「余暇」の空間を意味している。そういう「余暇」の空間でラテン語が長く余命を保ったことは、さほど不思議でもない。かえってそれは、実用的でないから実用的であつたのである。いずれにしてもラテン語は、（欧米圏の学校で）古典的な教養の<sup>2</sup>代名詞となった。（1）

（注2）ヴェブレンは『有閑階級の理論』（一八九九年）のなかで、有閑階級の文化を批判した。その一つとしてここでは、大学教育も槍玉に上がつている。ヴェブレンはこう言う。大学教育はそもそも、有閑階級（具体的には僧侶階級）の文化として生まれた。そしていまも、そのコン<sup>a</sup>セキを残している。たとえば儀式（入学式や卒業式）に際して、教授や学生が学帽をかぶったり、正服をま<sup>ガウシ</sup>とったりするのもI<sup>1</sup>それである、と。のみならずそこでのヴェブレンの中心的な標的は、人文学（humanities）や古典学（classics）におかれている（「南欧の死語」としてのラテン語は、その王座を占めている）。ヴェブレンはこうも言う。伝統や名声を<sup>b</sup>ホコる大学であればあるほど、人文学や古典学を重視している、と。もともと古典的な教養は、つねに現代的な教養によって乗り越えられる宿命をもつ。ヴェブレン自身「有閑階級の理論」のなかで、現代（同時代）の大学教育に生じつつある変化について触れている。

どうやらII<sup>2</sup>それは、経済学や社会学の登場のことを言っているらしい。あえてアイ・マイ<sup>c</sup>な表現をするのは、そうはA<sup>3</sup>的に語られていないからである。すなわちヴェブレンは、（古典的な教養を痛烈に批判しながら）現代的な教養を明確に提示していない。その意味では（注3）ドラッカーは、ヴェブレンよりも前進している。『ポスト資本主義社会』（一九九三年）のなかでドラッカーは、ポスト資本主義社会II知識社会の理論を提示している。従来の資本主義社会では土地・労働・資本の三つが、生産の資源であつた。しかし今日のポスト資本主義社会では、知識が生産の資源になる。資本主義社会では資本家と労働者が、中心的な階級であつた（このうち労働者は、生産手段をもたない階級であつた）。しかしポスト資本主義社会では、知識労働者とサービス労働者が中心的な階級となる。このうち知識労働者は、生産手段をもつことが注目される。（2）

概ね<sup>おおよそ</sup>それが、そこでのドラッカーの主張である。そこでは理論が、現実のずつと先を行っている。その意味ではそれを、そのまま真に受けることもない。しかし「知識が基本的な資源となってきた」という、かれの指摘そのものは興味深い。ドラッカーによれば「知識社会」の中心的な担い手は、知識労働者である。この知識労働者のことをかれは、「教養人（educated person）」とも呼ぶ。もちろんそれは、古典的な教養人とは異なる。——ドラッカーは「教養人」の条件を、さまざまな専門的知識をもつことにおく。より正確には専門的知識を、一般的知識としてもつことにおく。いずれにしてもここには、<sup>3</sup>「教養」概念の決定的な転回がある。ラテン語II知的なプライドの象徴という時代は、とうに終わっている

る。(ドラッカー風に言えば) わたしたちは今日、さまざまな専門的知識をどう運用するかを問われている。それがまさに、わたしたちの知的なプライドの戦場となりつつある。

4 中島敦の短編小説<sup>5</sup>「文字禍」はアシリアの老博士が、大王の命令で「文字の精霊」について探究する物語である。といってもそれは、d カクベツ神秘的な話ではない。「文字の精霊」とはそこで、文字(あるいは書物)のもつ B 的な魅力をさしているから。たとえばそこには、「或る書物狂の老人」が登場する。その老人は博学で、あらゆる言語に通じ、あらゆる書物を読んでいる。「凡そ文字になった古代のことで、彼の知らぬことはない」と、作者は書く。しかし老人は、自分の周辺の雑事にはからつきし興味が無い。たとえば今日の天気がどうであるか、子どもを亡くした隣人をどう慰めたらよいか、自分がいまどういふ衣服を着ているかといったことは、まるでご存じない。要するにそこでは、「文字の世界」が実質的な現実性(virtual reality)をもっている。そしてそれが、「現実の世界」を圧している。そういう老人のことをわたしたちは、「変人」とあざ笑うことができるであろうか。(3)

本来「文字の世界」は、実質的な現実性をもっている。そうでなければ「文字の世界」は、「文字の世界」たりえない。最近の社会学で市民権を得ている概念に、「想像のコミュニティ(imagined community)」がある。たとえば国家のメンバーが、イチ。ドウに会することは事実上ありえない。それでも国家が、国家として存立しうるのはなぜか。社会学者ならばこう答えるであろう。それは国家が、「想像のコミュニティ」であるから、と。そこではまさに、「文字の世界」が実質的な現実性をもっているのである。それに関連して「文字禍」のなかには、ある「若い歴史家」と例の老博士の間の興味深い問答がある。歴史家がこう問う。歴史とは「昔、在った事柄」をいうのか、それとも「粘土板の文字」をいうのか、と(アシリアでは文字は、粘土板に彫られていた)。それに対して老博士は、こう答える。「書かれなかった事は、なかった事じゃ。……歴史とはな、この粘土板のことじゃ」と。

どうやら老博士自身が、相応に「文字の精霊」にたぶらかされているらしい。というのにもかかれにとつては、文字に記録されること＝実在すること(文字に記録されないこと＝実在しないこと)であるから。そういう感覚はいまでも、わたしたちの間に広く行き渡っている。たとえば自分(あるいは自分の属するコミュニティ)が、メディアで取り上げられたらどうであろうか。C 的な文脈であれば吉報、そうでなければ凶報というのが、世間の相場であろう。あるいはまた自分で費用を負担してでも、自著を出版したい人々は跡を絶たない。そこでは自分の活動が、メディアを通じて記録され、保存され、伝承されることが重要なのである。今日圧倒的な存在感をもちつつあるメディアに、グーグルの検索がある。わたしたちの多くは一日に何度となく、そのサービスを利用する。そして自分の知りたいこと(それは往々にして、自分自身に関わることである)について、ウェブ上の情報を探す。(4)

今日ではあたかも、グーグルの検索でヒットしない＝この世に存在しないかのようである。スタンフォード大学の大学院生 L・ページと S・ブリンは一九九五年に知り合って以降、ウェブページの検索エンジンの開発に努めた。グーグルは二人が開発した検索エンジンの名称であるとともに、一九九八年に二人が創業した会社の名称でもある。グーグル(Google)は会社登録の際に、グーゴル(Googol)の綴り間違いによって生まれた

名称であるという。グーゴルは数の単位で、一グーゴルは十の百乗(10<sup>100</sup>)。つまりは一の後に〇が一〇〇個連なった一〇一桁の整数にあたる。そこには桁違いの量の情報を扱おうとする、グーグルの目標が[D]的に表現されている。グーグルの「会社案内」にはいまでも、こう明記されている。「グーグルの使命は、あらゆる情報を系統立てて整理し、いつでもどこでもだれでも利用できるようにすることである」と。一見それは、きわめて斬新な試みのように映る。

たしかに最新の情報技術を基盤としている、という意味ではそうである。しかしグーグルが、知識(ないしは情報)のシステムであることに変わりはない。すなわちそれは、アッシリアの粘土板の最新版にあたるのである。――わたしたちは「(注4) ググる (google)」ことで、あらゆる情報に「アクセス可能である」と聞かされている。しかし何度「ググリ」続けても、教養||自分らしい生の技法が高まるわけではない。というのも教養は、[E]的な情報を選別し、組織する技法であるから。したがって本当に重要なことは、時として「アクセスを遮断する」ことであろう。そして教養||自分らしい生の技法に磨きをかけるべく、深く思索することであろう。それによってわたしたちは、わずかながら知的なプライドを回復することができるかもしれない。そう言いながらわたし自身、日々くだらない事柄について「ググリ」続けている。疑いなくわたしたちは、目下反教養||無秩序の時代を生きている。(5)

(奥井智之『プライドの社会学 自己をデザインする夢』による)

(注1) 『車輪の下』||ドイツ生まれのスイスの作家ヘルマン・ヘッセ(一八七七―一九六二年)の小説。

(注2) ヴェブレン||一八五七―一九二九年。アメリカの社会学者。

(注3) ドラッカー||一九〇九―二〇〇五年。オーストリア生まれの経営学者。

(注4) 「ググる (google)」||グーグル (Google) などの検索エンジンを使って検索すること。

問1 傍線部a～eのカタカナにあたる漢字と同じ漢字を含むものを、各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選びなさい。

〔解答番号 1 5〕

a コンセキ

1

- ① ツウセキの念を抱く。  
② 犯人をツイセキする。  
③ 思わぬ失態にセキメンする。  
④ 外国製品をハイセキする。  
⑤ 仕事がサンセキする。

b  
ホコ<sup>リ</sup>る

2

- ① 志気をコ<sup>ロ</sup>ブする。  
② 集団の中でコ<sup>リ</sup>ツする。  
③ エンコをたよる。  
④ 事実をコ<sup>チ</sup>ョウする。  
⑤ 相手の事情をコ<sup>リ</sup>ヨする。

c  
アイマイ

3

- ① マイ<sup>キ</sup>ョにいとまがない。  
② マイ<sup>イ</sup>の事だから平気だ。  
③ 二人は仲のよいシ<sup>マ</sup>イだ。  
④ マイ<sup>ゾ</sup>ウ金を掘りあてる。  
⑤ 読書ザン<sup>マ</sup>イの日々を過ごす。

d  
カクベツ

4

- ① 施設をカ<sup>ク</sup>ジュウする。  
② 氷山のイッ<sup>カ</sup>ク。  
③ ハカ<sup>ク</sup>の待遇を受ける。  
④ 事件のカ<sup>ク</sup>シンに触れる。  
⑤ ガイ<sup>カ</sup>ク団体の支援を受ける。

e  
イチドウ

5

- ① シャクドウ<sup>シ</sup>色の肌。  
② お寺のホン<sup>ド</sup>ウ。  
③ ドウ<sup>リ</sup>に合わない。  
④ 国内産業がクウ<sup>ドウ</sup>化する。  
⑤ 避難所にユウ<sup>ドウ</sup>する。

問 2 空欄 A ～ E を補う語として最も適当なものを、次の①～⑥のうちから一つずつ選びなさい。(同じ番号を二度以上選んではいけません。)

〔解答番号 A = 6、B = 7、C = 8、D = 9、E = 10〕

- ① 魔術      ② 断片      ③ 明示      ④ 古典      ⑤ 好意      ⑥ 象徴

問 3 傍線部 1 「それは、実用的でないから実用的であつた」とはどういうことですか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。〔解答番号 11〕

- ① ラテン語は実用には適さないように見えて、実際は実用に適していたということ  
② ラテン語は仕事では必要なかったからこそ、余暇の時間つぶしとして学ばれたということ  
③ ラテン語は実用には不向きであつても、学術語としては重宝されたということ  
④ ラテン語は実際の役には立たないゆえに、教養として必要な科目にされたということ  
⑤ ラテン語は実用的ではなかったが、学校教育では実用的な言葉とされたということ

問 4 傍線部 2 「代名詞」のここでの意味として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。〔解答番号 12〕

- ① 集大成      ② 典型例      ③ 合言葉      ④ 最古参      ⑤ 金字塔

問5 傍線部Ⅰ・Ⅱの「それ」が指示する内容として最も適当なものを、各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選びなさい。

〔解答番号 ⅠⅡ 13、ⅡⅡ 14〕

Ⅰ 「それ」

- ① 『有閑階級の理論』
- ② 有閑階級の文化
- ③ 大学教育
- ④ 儀式（入学式や卒業式）
- ⑤ 人文学や古典学

Ⅱ 「それ」

- ① 人文学や古典学
- ② 古典的な教養
- ③ 現代的な教養
- ④ 『有閑階級の理論』
- ⑤ 現代（同時代）の大学教育に生じつつある変化

問6 傍線部3 「『教養』概念の決定的な転回」を具体化した次の文の空欄 X・Y を補うのに最も適当な語句を、後群の①～⑧のうちから一つずつ選びなさい。〔解答番号 XⅡ 15、YⅡ 16〕

ラテン語のような X 的で古典的な知識から、 Y としての専門的知識への転換。

- ① 現代
- ② 理論
- ③ プライド
- ④ 生産手段
- ⑤ 非実用
- ⑥ 有閑階級
- ⑦ 資本主義
- ⑧ 人文学や古典学

問7 傍線部4 「中島敦」の作品として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。〔解答番号 17〕

- ① 檸檬 れもん
- ② 山月記
- ③ 羅生門
- ④ 草枕
- ⑤ 刺青

問8 傍線部5「『文字禍』」に言及することで、筆者はどのようなことを訴えていますか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。〔解答番号 18〕

- ① 「粘土板の文字」から情報を得ている「文字禍」の老博士よりも、グーグルの検索機能を利用して情報を得ている私たちの方が進んでいるということ
- ② 「文字禍」の老博士が「文字の精霊」にたぶらかされているように、私たちもメディアに翻弄され、何が真実か分からなくなっているということ
- ③ 「文字禍」の老博士は「書かれなかった事は、なかった事じゃ」と言ったが、情報技術が発達した今日ではこの発言は真実ではないということ
- ④ 教養自分らしい生の技法を高めるには、「文字禍」の老博士のように書物ばかり読まないで、現実世界で経験を積むことが大切であるということ
- ⑤ グーグルの検索エンジンで「ググリ」続けている私たちは、「文字の精霊」に取りつかれた「文字禍」の老博士をけっして笑えないということ

問9 本文から次の文が抜け落ちています。どこに戻すのが最も適当ですか。後群の①～⑤のうちから一つ選びなさい。〔解答番号 19〕

というのにもかれまたはかの女は、知識をもっているから。

- ① ( 1 )
- ② ( 2 )
- ③ ( 3 )
- ④ ( 4 )
- ⑤ ( 5 )

問10

本文の内容と合致するものを、次の①～⑥のうちからすべて選びなさい。

〔解答番号

20

〕の解答マーク欄に、解答をすべてマークしなさい。〕

- ① ポスト資本主義社会では、一般的な知識をもつ古典的な教養人よりも、専門的知識をもつ知識労働者の方が、私たちの知的なプライドの戦場での勝者となる。
- ② 私たちは「ググる」ことによってあらゆる知識ないしは情報にアクセスすることができ、それによって教養＝自分らしい生の技法を身につけることができる。
- ③ 私たちが自分の活動がメディアを通じて記録され、保存され、伝承されることを望んでいることからわかるように、本来、文字の世界は実質的な現実性をもっている。
- ④ 私たちは「ググる」ことをやめて、ラテン語のような古典的な教養を身につけることによって、わずかながら知的なプライドを回復することができるとはしない。
- ⑤ 資本主義社会では資本家と労働者が中心的な階級であったが、今日のポスト資本主義社会では知識労働者とサービス労働者が中心的な階級であり、前者が生産手段をもっている。
- ⑥ 国家が「想像のコミュニティ」であるにすぎないにもかかわらず、国家として存立しうるのは、現在の社会がポスト資本主義社会だからである。

## 第2問 次の文章を読んで、後の問い（問1～問11）に答えなさい。

複雑な気持ちにさせられる褒め言葉がある。「日本語お上手ですね」である。複雑な気持ちというか、気分を害する時もある。

客観的に見て、私は日本語が上手だ。これは間違いなく事実だし、この事実は、使える漢字や語彙の量、文型のバリエーション、または発音の自然さや、産出する文の文法的正確さなどによって定量的に評価できるものである。「日本語お上手ですね」という文は、いわば事実を述べているだけのように思われる。事実を言っているだけならば、なぜ気分を害するのだろうか。

この疑問については、このように考えることができる。「日本語お上手ですね」という文は、単に事実を述べるだけの言明ではない。「地球は丸い」「円周率は無理数だ」「日本は火星にある」、このような文は、ある主張を示す「命題」であり、命題には<sup>1</sup>真偽の判断がつく（例えば「日本は火星にある」は偽の命題である）。しかし「日本語お上手ですね」という文は、真偽の判断がつく単なる言明というより、話し手の主観的評価に重きを置いているように感じられる。（イ）、誰かに「日本語お上手ですね」と言われた時に、私はその人にとって評価の対象になっているというわけだ。もし私が「評価してほしい」と頼んでいないのであれば、私はその人によって勝手に評価の対象にさせられたのである。それでは不快な気持ちにもなるだろう。

（ロ）、それだけでは説明がつかないようだ。例えば私はよく「髪が綺麗ですね」と褒められるのだが、そう言われて機嫌を<sup>a</sup>損ねたことはあまりない。頼んでもいないのに勝手に評価の対象にさせられるという点では、「日本語お上手ですね」と同じだが、<sup>2</sup>なぜこのような違いが生じるのだろうか。

恐らく「日本語お上手ですね」から来る不快感を整理する上で、「誰が誰に対してどういうふうに言っているか」という観点が重要ではないかと思われる。（ハ）、日本語を母語とする日本人が日本語を流暢に<sup>りゅうちやう</sup>操っているのを見たとしても、大抵の人はその日本人に対して「日本語お上手ですね」とは言わないだろう。日本語を母語とする日本人なら、日本語が上手なのは当たり前であり、特段評価の<sup>3</sup>組上に載せるような事柄ではない。同じように、私たちは（注1）ジョー・バイデンや（注2）ボブ・ディランに「英語お上手ですね」と言ったりしない。彼らを評価する際には別の評価軸が用意されるべきだ。そう考えると、「日本語お上手ですね」の不快感の正体もはつきりしてきたように思う。「日本語お上手ですね」と言われる時に、私は「日本語が上手なのは当たり前ではない（あるいは、日本語が下手なのが普通だ）」という言外の前提をあらかじめ置かれているのだ。そしてその前提を支える客観的事実は、「私は日本人／日本語母語話者ではない」というものである。要するに「日本語お上手ですね」と褒められる時に論じられているのは私の言語能力だけでなく、私という人間の出自もそこでは暗に問題とされているわけだ（一方、「髪が綺麗ですね」という褒め言葉にはそんな前提が存在しない）。差別発言とは言わないまでも、他者の出自を取り上げ、その出自に基づいて決めつけるような前提を置き、その前提を根拠に何かを褒める行為は、少なくとも（注3）マイクロアグレッションには該当する。例えば「ゲイなのに逞しいね」とか「女性なのに力持ちだね」とかの例と同じで、不快になるのは当然というほかない。

しかし、どうもそれだけではないような気がする。(ニ)、私は日本に留学し日本語を学習している留学生から日本語能力を褒められることがあるが、そういうケースではあまり不快にはならない。一方、初対面の日本人のおじさんから言われると腹が立ってしかたがない。つまり、「誰にどのように言われたか」の文脈も大事だ。留学生から言語能力について褒められる時は大抵、尊敬の眼差しと憧れの口調で言われる。彼女たちにとって、私は一つの(注4) <sup>ロールモデル</sup>と見なされているのがひしひしと感じ取れる。(ホ)、日本人のおじさんはそういう感じでは全くない。「俺は日本人だから日本語が堪能なのはまあ当たり前だが、あなたは違うのに日本語が上手で偉いね、いっぱい勉強しただろう？褒めてやるよ」的な上から目線のニュアンスがはっきり伝わってくることが多い。この種の賞賛は、相手を同じ土俵に立つ人間として認め、心の底から感心しているというより、相手を一応褒めることによって自らの優越性を再確認することを目的としている。褒めているように見せかけているが、実は見下しているわけだ。(注5) 芥川賞受賞後の取材ラッシュで、とある団体の機関誌から取材を受けた時、その団体の理事長やら何やらのおじさんからなぜか日本語という言語の優越性についてひとしきり熱弁を振るわれた上で、「君は日本語の素晴らしさに気づけるなんて偉いね」と面と向かって言われた。<sup>4</sup> 苛立ちを隠すのに必死だった。

交換留学時代、「日本語お上手ですね」という賞賛を飽きるほど浴びた。相手は大抵、周りにいる日本人学生だった。

あの時、私はいくつかのサークルに入っていた。趣味のサークルのほかに、留学生と日本人学生の国際交流を趣旨とするサークルもあった。そして皮肉なことに、<sup>5</sup> 後者より前者のほうが居心地がよかった。

趣味のサークルでは、留学生も日本人学生も関係なく、みんな分け隔てなく趣味で繋が<sup>つな</sup>がり、交流していた。ピアノのサークルでは私は(年齢的には三年生だが、早稲田大学は一年生なので)一年生として扱われ、日本人学生たちと分け隔てなく遊んでいた。競技かるたのサークルでは、留学生といっても特別な待遇を受けることなく、みんなと同じように稽古に参加していた(これはよく考えればすごいことだ。競技かるたは小倉百人一首かるたを使った競技で、百首覚えるのが前提だから、留学生にとってはもちろんハードルが高い。実際、私以外に留学生は一人もいなかった)。

ところが「国際交流」が趣旨のサークルでは、留学生と日本人学生は違うものとして見られ、扱われていた。当時の一斉連絡はまだガラケーのメーリングリストが主流だったが、メーリングリストは留学生用と日本人学生用のものに分けられていた。私も<sup>6</sup> デフォルトで留学生用のメーリングリストに登録されたが、こちらのメールはもっぱら英語で配信されていた。頑張れば読めなくはないが、私にとって英語より日本語のほうがずっと得意でストレスなく読める。そもそも私は日本語の精進のために日本に留学しているのに、なぜ英語を読まされなければならないのか、また、私は英語圏ではなく中国語圏出身なのに、なぜ英語が読めることを前提視されているのか。疑問は尽きなかった。どうやら国際交流サークル内で想定されるスタンダードな留学生像は欧米出身の英語話者であり、アジアの留学生は想像の埒外にあるようだった。私はそこに、無邪気な欧米崇拜とアジア蔑視、ひいては英語覇権に対するあまりの無批判さを感じた。メーリングリストを分けるのももちろん悪気はなく、どちらかと言えば日本語が不自由な(恐らくは多数派の)留学生への配慮が目的だっただろうが、私に限って言えば、そんな配慮はひどく的外れなものに映った。

(李琴峰 <sup>リシンフミ</sup>『日本語からの祝福、日本語への祝福』による)

(注1) ジョー・バイデンⅡ一九四二年〜。アメリカの第46代大統領。

(注2) ボブ・ディランⅡ一九四一年〜。アメリカのシンガーソングライター。

(注3) マイクログレッションⅡ無意識に他者を傷つける言動。

(注4) ロールモデルⅡ自分の行動や考え方の規範となる人物。

(注5) 芥川賞受賞Ⅱ筆者は『彼岸花が咲く島』で第165回芥川賞を受賞した。

問1 傍線部a「損」・b「操」の漢字の読みの最初の文字を、次の①〜⑥のうちからそれぞれ一つずつ選びなさい。

〔解答番号 aⅡ21、bⅡ22〕

- ① あ      ② く      ③ こ      ④ さ      ⑤ そ      ⑥ も

問2 空欄(イ)〜(ホ)を補う語として最も適当なものを、次の①〜⑥のうちからそれぞれ一つずつ選びなさい。(同じ番号を二度以上選んではいけません)〔解答番号 イⅡ23、ロⅡ24、ハⅡ25、ニⅡ26、ホⅡ27〕

- ① というのも      ② ところが      ③ 例えば      ④ だから      ⑤ つまり      ⑥ 一方

問3 傍線部1「真偽」と熟語の構成が異なるものを、次の①〜⑤のうちから一つ選びなさい。〔解答番号 28〕

- ① 簡易      ② 因果      ③ 是非      ④ 虚実      ⑤ 慶弔

問4 傍線部2「なぜこのような違いが生じるのだろうか」について、筆者はその理由をどのように考えていますか。その説明として最も適切な

ものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。〔解答番号 29〕

- ① 「日本語お上手ですね」は相手のすぐれた日本語能力を褒めているのに対して、「髪が綺麗ですね」はただたんに相手の身体的特長を褒めているから。
- ② 「日本語お上手ですね」は相手が日本人でないことをふまえて褒めているのに対して、「髪が綺麗ですね」は相手が日本人かどうかとは無関係に褒めているから。
- ③ 「日本語お上手ですね」はわざと相手を不愉快な気持ちにさせようとして褒めているのに対して、「髪が綺麗ですね」は相手を喜ばせようとして褒めているから。
- ④ 「日本語お上手ですね」は相手のすぐれた日本語能力のみを褒めているのに対して、「髪が綺麗ですね」は相手の出自と髪とを結びつけて褒めているから。
- ⑤ 「日本語お上手ですね」は相手が頼んでもいないのに勝手に褒めているのに対して、「髪が綺麗ですね」は相手に頼まれていると勘違いして褒めているから。

問5 傍線部3「俎上に載せる」の意味として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。〔解答番号 30〕

- ① 対象にする
- ② 採決を取る
- ③ 確認を取る
- ④ 参考にする
- ⑤ 機会を作る

問6 傍線部4「苛立ちを隠すのに必死だった」とありますが、筆者が「苛立」った理由の説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから

一つ選びなさい。〔解答番号 31〕

① 初対面の日本のおじさんが、言語に優劣などあるはずがないにもかかわらず、日本語の優越性についてひとしきり熱弁を振るったから。

② 初対面の日本のおじさんが筆者の日本語能力を褒めているように見せかけてはいても、内心ではけなしていることが見え見えだったから。

③ 初対面の日本人のおじさんにいちいち日本語の素晴らしさについて教えてもらわなくても、日本語が堪能な筆者はすでに理解していたから。

④ 初対面の日本人のおじさんが、無意識ながら日本語を母語とすることにアドバンテージを感じているような話し方で話しかけてきたから。

⑤ 初対面の日本のおじさんが、外国人である筆者が芥川賞を受賞したことよりも、日本語の素晴らしさを自慢することにいっそう熱心だったから。

問7 傍線部5「後者より前者のほうが居心地がよかった」と筆者が感じた理由の説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び

なさい。〔解答番号 32〕

① 国際交流のサークルとは違い、趣味のサークルは、留学生であることをことさら意識しないで済んだから。

② 国際交流のサークルとは違い、趣味のサークルは、いろいろな趣味を通じてみんなと親しく交流できたから。

③ 国際交流のサークルとは違い、趣味のサークルは、留学生として特別な待遇を受けることができなかったから。

④ 趣味のサークルとは違い、国際交流のサークルは、欧米出身の英語話者への配慮ばかりが行き届いていたから。

⑤ 趣味のサークルとは違い、国際交流のサークルは、自分が留学生であることへの配慮がなされていなかったから。

問8 傍線部6「デフォルト」の訳語として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。〔解答番号 33〕

- ① 初期設定      ② 動機づけ      ③ 読み書き能力      ④ 紋切り型      ⑤ 自己同一性

問9 芥川賞の候補に上がりながらも受賞できなかった小説家の一人に太宰治がいます。太宰の作品として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。〔解答番号 34 〕

- ① 草枕
- ② 津軽
- ③ 刺青
- ④ 破戒
- ⑤ 和解

問10 本文の標題として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。〔解答番号 35 〕

- ① 日本語の素晴らしさ
- ② 芥川賞受賞
- ③ 日本語お上手ですね
- ④ 国際交流
- ⑤ 留学生への配慮

問11 筆者の考え・心情と合致するものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。〔解答番号 36 〕

- ① 日本人に自分の日本語能力を褒められて不愉快な気分になるくらいなら、最初から日本語ではなく英語を選んで学習すればよかった。
- ② 自分がどんなに漢字や語彙の量が多く、発音が自然で、文法的に正確であっても、日本語を母語とする人たちにはかなわない。
- ③ 同じ日本語を学習している留学生から日本語能力を褒められてもあまり不快にならないのは、彼らよりも日本語を流暢に話せるからだ。
- ④ 日本語が堪能であることを日本人に褒められると、自分が一段低い人間のように思われている気がして、不快な気分になることがある。
- ⑤ 日本語を学習している留学生はだれもが日本語が上手になりたいと願っているとはいえ、留学生に対するこれみよがしの配慮は不要だ。